



みのぶ

8月号



秋まき小麦収穫作業（峰延地区収穫機械施設利用組合 7月16日）

■発行日/令和6年8月1日/No.1468号

■発行/峰延農業協同組合

〒079-0192 美唄市字峰延37番地

Tel 0126(67)2111 Fax 0126(67)2793

ホームページアドレス <http://www.ja-minenobu.or.jp/>

■編集/総務課 ■印刷/空知印刷株式会社

峰延ブランド米生産組合

「営農研修会」開催する

7月2日、JAみねのぶ玄米ばら集出荷調製施設と「ゆめぴりか」優良生産者圃場の視察を行い、11名の組合員が参加しました。

吉田組合長は冒頭に「我々が生

産したお米がどのように調製されているのか改めて学びたい。何か

わからぬことがあれば気軽に質問し、今後の営農に繋げられる有意義な研修としたい」と話しました。



香りの畦みちハーブ米 ハーブ苗引渡し定植行う

6月25日、当JAの「香りの畦みちハーブ米」の栽培に使用するハーブ苗の引渡しを峰樺3区の農産物検査場所で行いました。

今年は1名の生産者に「アップルミント」を引き渡しし、6月26日に新規作付者である美唄市光珠内の石戸谷健伍さんの圃場でハーブ苗の定植作業を行いました。香

りの畦みちハーブ米生産部会の会員とJA職員合わせて11人が参加しました。

会員らはスコップで約1m間隔に穴を掘り、手作業で丁寧に定植を行い、約3時間で332ヶの圃場の周りに1328株のハーブ苗を定植しました。

香りの畦みちハーブ米生産組合では、水田の周りにハーブを栽植し、カメムシの発生源であるイネ科雑草を抑制し、農薬の使用量を

して、畦にハーブを植えることを検討しており、栽植方法や繁殖方法等についてのヒアリングがありました。その後、本部事務所で香りの畦みちハーブ米について、説明をし、活発な意見交換が行われました。

北海道が策定した化学合成農薬の成分使用回数22回に対し、半分以下に減らした「香りの畦みちハーブ米」を生産しています。安全・安心な農産物の供給と、環境保全型農業の実践に取り組んでいます。

「カラフル」のレタス 出荷スタート

今年も新鮮なレタスの季節がやってきました。当JA管内の野菜生産者グループ「カラフル」が作付けするレタスの出荷が6月21日から開始され、消費者の食卓に新鮮な野菜をお届けしています。

出荷先はコーナーさっぽろやJR生鮮市場等の量販店を中心に出荷

明を行い見学しました。中でも自主検査に使用されるサンプルの採取方法や自主検査の方法、原料の混合調製方法について活発に質問が飛び交いました。

「ゆめぴりか」優良生産者圃場にて耕種概要を直接説明を受けながら視察を行いました。

J A 東川ハーブの視察に 訪れる

6月20日、JA東川の職員2名が訪れ、当JAの香りの畦みちハーブ米生産部会の小川浩之会長と目黒素行副部会長が対応しました。JA東川の職員はハーブ米圃場を視察し、今後、畦管理の省力化と



されていきますので、ぜひお近くの店舗でお買い求めください。

本年のレタスの作付面積は36haに達し、取扱数量は10万玉（約100トン）を目指しています。7月下旬に最盛期を迎え、10月上旬までの長期間にわたり、安定供給を計画しています。

小麦集出荷調製施設 操業始まる

小麦集出荷調製施設で本年産麦の受け入れが7月22日から始まりました。



秋まき小麦の収穫始まる

本年の刈り取り作業は早いところで7月13日頃から始まり17日頃にピークを迎えるました。また、小麦集出荷調製施設は、9月上旬終了を目指しておられます。



青年部員が農業用廃プラスチックを受け入れ 合計33トン受け入れ

6月21日、JAみねのぶ青年部は峰樺3区の農産物検査場所で使用済み農業用廃プラスチックを受け入れました。産業廃棄物である廃プラスチックをリサイクルする



ことで、環境保全の推進や資源の有効利用促進することを目的に毎年取り組んでいます。

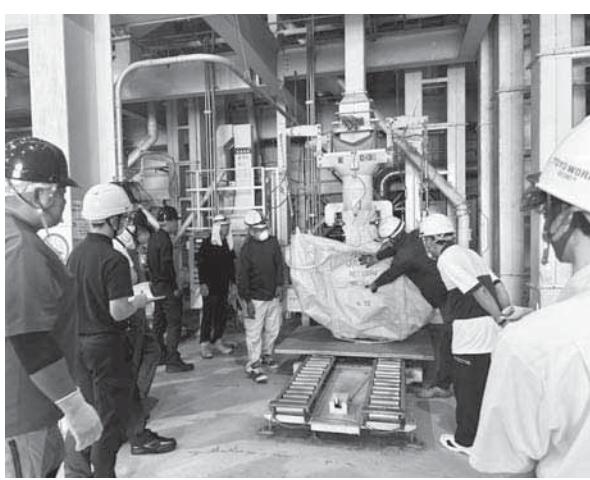
JAでは年2回、廃プラスチックの受け入れ作業を行つており、次回は10月下旬の実施を予定しています。

施設作業が始まるにあたり 安全大会実施される

川端慶也部長は「岸本副部長を筆頭に参加部員の皆が事故、怪我無く終えることができた。廃プラスチックされ、火力発電所で化石燃料の代替燃料として再利用されます。

牧市の工場で有効資源としてリサイクルされ、火力発電所で化石燃料の代替燃料として再利用されます。

7月18日、小麦集出荷調製施設で作業する職員に対し、安全大会を実施しました。まずは安全に対する10か条の説明と写真を用いた危険箇所の説明を行いました。次に実際に天井クレーンの操作や充填の方法を実践し、本番さながらに体験をし、事故のない施設運営を目指して稼動します。



職員対象に情報セキュリティ 研修会開催

6月27日、3階会議室で全職員が受けられるように、開催時間を2回に分けて、情報セキュリティ研修会を開催しました。講師はJA北海道情報センター道央営業所のセンター長以下3人、JA業務において、コンピューターやネットワーク利用時の情報セキュリティ事故は常に隣り合わせのリスクで、万が一、情報セキュリティ事故が発生してしまった場合、社会的信頼を失い経営に大きな影響を与える可能性があります。情報センターでは、「不正アクセス対策・スパムメール対策・アンチウイルス対策・情報漏えい対策」の機械的対策を隨時行っていますが、情報漏えいの約68%は何らか的人的要因と言われ、機械的対策以外にJA職員に対する情報セキュリティ教育が欠かせないと説明を受け、情報セキュリティの意義、事故事例紹介、電子メールの誤送信、SNS利用上の注意点について研修を受けました。

役員コンプライアンス 研修会開催

6月25日、当JA会議室でJA

役員を対象にwebによるコンプライアンス研修会を開催しました。研修内容は、マネロン・テロ資金供与対策で、理事7人、監事2人が出席しました。
マネロンとは、マニー・ローンディングの略、日本語では資金洗浄で、犯罪によつて得た収益を、その出所や真の所有者が分からないようにして、捜査機関等による収益の発見や検挙等を逃れようとする行為で組織犯罪に係わり、金融機関が使われることが多いと言われています。

役員主導でマネロン・テロ資金供与対策を行う必要性、把握すべき事項、役員が主導する態勢整備の内容のwebを約30分にわたり視聴しました。

職員コンプライアンス

研修開催



旗を振り交通安全呼び掛けける

6月25日、朝8時30分からJA本所前の国道12号歩道で、伊藤組合長、高田専務理事以下15名の職員が国道沿いに並び、「シートベルト着用」「スピードダウン」と記した黄色の旗を振り、国道を往来する車の運転者に交通安全を呼び掛けました。



これは、美唄地区安全運転管理者協会に属する全事業所が取り組む活動で、職場内の交通安全意識の醸成と地域社会で車輛を使つて事業活動をする一員として、無事故・無違反を社会に広く訴え掛けます。

北海道の条例検査実施される

北海道が定期的にJAに対して実施する条例検査が、当JAで実

職員19人が参加しました。

参加職員を4つのグループに分けて、新聞記事事例を参考として、グルーブワークを行い、各職場の改善点や日々の業務に生かせるアイデアなど、新聞で得た気付きました。

今後は、グルーブワークにて見えた課題を中心に、新聞購読を継続して行い、毎月、記事の内容や進捗状況の共有を行うことにしました。



伊藤組合長の開会挨拶

施されました。この検査に先立つて多くの検査書類を担当課において作成し、指定の期日までに提出しました。今回の条例検査は、7月16日から19日の期間に検査員4名と公認会計士1名によつて、各課に分かれて行われ、最終日の19日には、常勤役員と幹部職員、代表監事が参集し、検査講評が行われました。当JAが直近で受けた条例検査は令和3年です。

峰延農協年金友の会 パークゴルフ大会

7月11日、峰延農協年金友の会（吉田 栄会長）は三笠市岡山にある三笠市パークゴルフ場でパークゴルフ大会を行い、23人が参加



し白熱したプレーが繰り広げられました。

当日は、気温が30℃近くあり蒸し暑く、開会の挨拶を行つた伊藤組合長は、気温が高いので体調に気をつけて楽しんでくださいと述べました。

参加者は3組に分かれて3つのコースから一斉にスタート、日頃の練習の成果を発揮しようと真剣にプレーしていました。

熱戦の結果、今大会の優勝者は、男性部門は渋谷和夫さん（岩峰こぶし会）、女性部門は渡辺艶子さん（峰延東松盛会）、ホールインワンは、渋谷和夫さんで競技終了後も表彰式が行われました。

第6回（7月定例）理事会 開催

7月25日開催の第6回（7月定期）理事会において次の事項が決議されました。

◇決議事項◇

- 組合員による持分譲渡の承認について

おくやみ申し上げます

横尾 トキ子さん	（88歳）6月27日
河野 龍盛さん	（93歳）7月9日
星野 トミ子さん	（88歳）7月17日
吉成 テルさん	（95歳）7月22日
美唄市光珠内町4区	岩見沢市岡山町254番地5
河野 龍盛さん	（93歳）7月9日
星野 トミ子さん	（95歳）7月17日
吉成 テルさん	（95歳）7月22日
美唄市豊葦町1区	岩見沢市岡山町254番地5

尊徳翁は次のように話された。
中国古代の堯帝は、厚く国を愛していて、刻苦励精して国家を治めていた。人民は、我々は自分たちの力で、井戸を掘つて水を飲み、田畠を耕して、食料を得て食べてゐる。堯帝の力など、我々は借りていないので、と歌つて言つた。堯帝は、これを聞いて、大いに喜ばれたそうである。普通の人間であれば、人民は恩を知らないと怒るのであろうに、堯帝の力など、我々は借りていないので、と歌うのを聞いて喜ぶのは、堯の堯たる所以である。私が指導している事業は、堯、舜もこれを悩んだという天下の大業の一部分である。私が、仕法の仕事を従事して、刻苦勉励して、國を起こし、村を起こし、飢饉の時などの困窮者を救うときにも、人民は、報徳の力がどうして我々の上にあろうかと、必ず歌うべきである。この時、これを聴いて、喜ぶ者で無ければ、私の仲間ではない。皆、良く学べ。（夜二三三）

創立110周年記念ビールパーティー盛会裏に終わる



開会挨拶をする伊藤組合長



今にも降り出しそうな空模様ですが大盛況！



美味しい食べ物を用意したキッチンカーが並びます

本年度の事業計画で予定している当JAの創立110周年記念事業のイベントの一つのビールパーティーが、7月5日16時から、当JAビル裏の駐車場に設けた特設会場で開催されました。ビールパーティーには組合員や地域住民の皆さんと家族、ホクレン等の系統連合会の皆さん等約200人が訪れ、曇り空で湿度の高い夕方のひと時を生ビール、焼き鳥等で楽しんでいました。

桜井美唄市長、松野岩見沢市長、古賀美唄市議会議員も訪れ、会場の皆さんと交流を深めていました。ビールパーティーの催しは、平成26年に創立100年を記念して始められ、毎年続けていましたが令和元年の開催後、コロナ禍で開催を控えていましたので、今回は5年振り通算7回目の開催となります。

伊藤組合長は、開会の挨拶で「日頃のご愛顧に感謝申し上げます。5年振りの開催ですが、天気が悪い中、大勢の皆さんにご来場いただきありがとうございます。」と述べました。



盛り上がっています



手打ちそばで腹ごしらえ



焼き鳥は職員が焼きます



一圓融合の試飲コーナー

会場では、生ビールやソフトドリンクの他、焼き鳥（福よし）、手打ちそば（峰延そば愛好会）、ザンギ、手羽先、つくね、揚げパンアイス、餃子が販売され、買いためのお客さまが並び、皆さん堪能していました。



クイズ大会では会場も楽しみました



輪投げコーナーのお子さんは楽しそう！

最後に、高田専務理事が閉会の挨拶を述べ、ビールパーティーは盛会に終わりました。笑いが湧き上がっていました。最後の「大抽選会」では発表の度に、喜びと落胆が繰り返されていました。

ポツリポツリと雨が降り出して
傘が開き始めました柿の種早出し大会で、
振ったり絞ったり なかなか出ない！

閉会の挨拶をする高田専務理事



大抽選会で商品ゲット！

「安全第一」こそ
集落営農の最重要課題

農作業死亡事故の多くが高齢者
多くの地域で世代交代や担い手の確保が困難な状況
事故の重大さを集落全体で認識する必要
「迷惑をかける→事故を隠す」につながらないよう、ヒヤリハットの共有や危険個所の改修を徹底

対策のポイント

- ・事故発生時の手順書を明示。
- ・作業時は各自が救急箱を持参。
- ・ヒヤリハット事例を地図アプリと簿冊で共有。
- ・朝礼で作業場所付近の危険個所やドローン作業における事故防止を注意喚起。
- ・トラクター作業では必ずヘルメット装着、片ブレーキ厳禁、修理点検時のエンジン停止などを徹底。
- ・危険が予想される個所での草刈り作業は2人以上で行う。



農作業事故の当事者が語る……

ケガで地域に迷惑をかけてしまう



ケガによる担い手の離脱は集落営農の崩壊にも

水稻・そば・麦・大豆を作付ける集落営農法人では、30kgの個袋を計量器からパレットまで運ぶ際、床面からの持ち上げや10m程度の移動によってギックリ腰・腰痛が頻発していました。主たる担い手がケガをして作業から離脱すると、地域全体の営農に影響を及ぼします。当初掲げていた集落営農像も実現できなくなりかねず、法人代表は「地域の担い手になつた以上、ケガは自分だけの問題ではない。地域に迷惑をかけたくない一心で、事故防止に取り組んでいます」と語ります。

ヒヤリハットの共有は恥ずかしいことではない

GAP（農業生産工程管理）の団体認証に取り組む別の集落営農法人では、乾燥調製施設内で荷物を持ち上げる際に突起物で頭部を強打したり、脚立からの落下、鎌やカッターによる切傷などの事故が発生していました。

そこで、「ヒヤリハットの共有は恥ずかしいことではない」との意識から、従事者同士でヒヤリハット事例を共有化。作業日誌のほかスマホからも記載できるようにして、作業に行く際はスマホのアプリから危険を知らせる通知を表示。ほかにも、作業が困難な箇所（せまい農道から水田への進入路など）はペテランが担当するなど、危険回避に努めています。

落 下、強 打 事 故 が 多 発 し て い ま す



果樹園でSSS運転中、主枝に頭部を打ちつけ…

スピードスプレーヤーを運転中、果樹の主枝の直近で頭を傾けて避けたものの、SSSの異音に気づいて運転席のメータを確認しようと顔を上げた際、頭部が主枝に激突。ヘルメットも飛びほど

トラクターからの降車時、凍った地面で足を滑らせた際、乗用トラクターで除雪中、障害物に気づいてトラクターから飛び降りようとした際、凍った地面で足を滑らせて仰向けに倒れ、右肩を強打。

田植え機に肥料を補給しようとして…

20kgの肥料袋を抱えて田植え機の前部に乗りつた際、足を滑らせて転倒。田植え機に腰と背中を強打し、脊椎骨折と打撲。

田植え機が体の上に…

運搬車の荷台から田植機をバツクで降ろす際、あゆみ板が外れそうになつたため、とつさに飛び降りて伏せたところ、上から田植機が落下ってきて左大腿骨折。

子供たちの声に驚いた牛が…

搾乳中、近くで小学生が大声で挨拶をしたことに驚いた牛が、作業者の左大腿部付け根を踏みつけ骨折。

モノレールに乗つて…

ミカン園で無人運転用のモノレールに乗り、ハシゴと刈払機を運搬しようとしたところ、防風垣にぶつかって脚を強打。

安全管理と事故防止対策

- ・車高が高い乗用トラクターは飛び乗り・飛び降り厳禁。
- ・靴底に十分刻みがあり、滑りにくい長靴を使用。
- ・公道走行に必要な安全機能が装備されていない田植機の移動は、運搬車を使用。積み込み・積み下ろしにはあゆみ板を利用。
- ・果樹園内の作業路は、枝葉のかぶさりや旋回場所などのリスクを毎年チェック。
- ・無人運転用モノレールには乗らない。
- ・危険行動が予測される牛の搾乳は複数人で、牛を保定して行う。
- ・牛の近くでは大声を出さず、ゆっくり行動。

2024年2月

一般照明用の蛍光ランプの製造・輸出入は2027年までに廃止されます

2023年11月の「水銀に関する水俣条約 第5回締約国会議」において、

一般照明用²の蛍光ランプの製造・輸出入を、2027年までに段階的に廃止することが決定されました。

既に使用している製品の継続使用、廃止日までに製造された製品（在庫）の売り買い及びその使用が禁止されるものではありません。

廃止の時期（蛍光ランプの種類ごとに廃止時期が異なります。）

種類	直管蛍光ランプ	環形蛍光ランプ [°]	コンパクト形蛍光ランプ [°]
廃止年月日	2027年12月31日(※)	2027年12月31日(※)	2026年12月31日
写真（例）			

(※) 直管蛍光ランプと環形蛍光ランプには一般タイプの「ハロリン酸塩系」蛍光ランプとプレミアムタイプの「三波長系」蛍光ランプとの二種類があり、互換性があります。後者の方が高効率でより明るい仕様です。「ハロリン酸塩系」が2026年末、「三波長系」が2027年末に、製造・輸出入が廃止されます。

一般照明用蛍光ランプの表示例

製品本体に付された品番が「F」で始まるものが蛍光ランプです。

(蛍光ランプに印字された品番に、三波長系蛍光ランプのみ「3波長形」または「EX」と表示ありますが、これらの表示がないものはハロリン酸塩系のランプです。)



海外製品では品番の表記が異なることがありますので、お手持ちの製品が蛍光ランプかわからない場合は、お近くの蛍光ランプ取扱店またはメーカーにお問い合わせください。

LED照明への切り替え

一般照明用の蛍光ランプの製造・輸出入の廃止に伴い、LED照明への計画的な更新をお願いいたします。切り替え工事が必要な場合もあります。

LED照明への切り替えが難しい場合は、あらかじめ電気工事店等に交換用の蛍光ランプ確保についてご相談ください。

【本件に関するお問合せ先】

経済産業省 化学物質管理課 TEL: 03-3501-0080 e-mail: bzl-suigin@meti.go.jp

環境省環境保健部 水銀対策推進室 TEL: 03-5521-8260 e-mail: suigin@env.go.jp

²一般照明用ランプについては、一般社団法人日本照明工業会の資料を参照ください。

https://www.jlma.or.jp/kankyo/suigin/docs/suigin_lamp_youto.pdf



今も昔も JA配置薬



日本の家庭薬と共に歩んできた「JA配置薬」は、これからも健康で豊かな暮らしを応援しています。



「JA配置薬」は、開拓時代(大正十二年)にいわゆる家庭薬として農村部に浸透しており、産業組合によるクミアイ家庭薬の配給から始まりました。昭和二十八年にJA北海道厚生連のクミアイ家庭薬の取扱いを農協運営のもとで開始。昭和五十六年には農協からJA北海道厚生連に業務を移管しました。配置薬の定番でもある「マスクゲンドリンク」(昭和四十二年販売)や「かぜぐすりカプセル」(昭和五十八年販売)は、販売から四十年以上経った現在でも愛され続けています。

J A 配置薬の歴史

「JA配置薬」は、開拓時代(大正十二年)にいわゆる家庭薬として農村部に浸透しており、産業組合によるクミアイ家庭薬の配給から始まりました。

昭和二十八年にJA北海道厚生連のクミアイ家庭

薬の取扱いを農協運営のもとで開始。昭和五十六年

には農協からJA北海道厚生連に業務を移管しま

した。配置薬の定番でもある「マスクゲンドリンク」

(昭和四十二年販売)や「かぜぐすりカプセル」(昭和

五十八年販売)は、販売から四十年以上経った

現在でも愛され続けています。

これからも、JA配置薬

JA配置薬はご家庭に本会の救急箱をお預けして、お薬を使った分だけ料金をお支払いいただくシステムです。

お申込みで
救急箱を
無料でお届け

定期的に
ご自宅へ
推進員が訪問

使った
お薬分だけ
ご清算&補充



【お取扱い品目】

- かぜ薬 ●解熱鎮痛剤 ●胃腸薬 ●便秘薬 ●下痢・食あたり
- 鼻炎薬 ●漢方薬 ●外用薬 ●ドリンク剤 ●保険薬
- 健康食品 ●各医療機器 ●介護用品 ●その他



北海道厚生農業協同組合連合会
〒060-0004 札幌市中央区北4条西1丁目1番地
受付時間 平日 8:30~17:00



救急の よい クスリー
0120-99-41-93

JA配置薬
LINE公式
アカウント

